

## 周南市環境審議会議事録

平成 25 年 5 月 8 日（水） 13：30～14：45

周南市文化会館 3 階 展示室

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

市長に代わって副市長が挨拶した。

### 3 新委員の紹介

#### (1) 工場又は事業場を代表する 2 号委員

・出光興産株式会社

執行役員 徳山製油所長 兼 徳山工場長 前澤 浩士 委員

・株式会社トクヤマ 徳山製造所

執行役員 徳山製造所長 安達 秀樹 委員

・帝人株式会社 徳山事業所

事業所長 河野 正幸 委員

#### (2) 学識経験を有する 3 号委員

・山口大学大学院 理工学研究科

教授 斉藤 俊 委員

#### (3) 住民を代表する 4 号委員

・向谷 静波 委員

・江見 真迅 委員

### 4 会長の選出

中尾委員が会長に選出された。

### 5 副会長の指名

次の順位で会長が指名した。

第 1 順位 小田 敏雄 委員

第 2 順位 中津井 求 委員

第3順位 前澤 浩士 委員

## 6 議題

### 【諮問事項】

株式会社トクヤマ 徳山製造所

「徳山下松港徳山地区（T-10）埋立計画に係る環境影響評価方法書」について

- ① 株式会社トクヤマ 徳山製造所が方法書の内容を説明した。
- ② 技術調査会委員長が技術調査会での審議検討結果を報告した。

### ◆質疑

（技術調査会委員長）

この埋立計画はかなり大規模であって、東3号の温排水の出口も少し沖合に移動するので、象徴的には蛇島の藻場などについては、十分意識してフォローアップ等をしていただきたい。「準備書の段階でも追加的な意見があれば述べることとして」というのはそういう気持ちである。

（会長）

先の話になるのだろうが、工事が実際に始まるのはいつぐらいになるのか。

（トクヤマ）

工事をするのはいつぐらいの時期かという質問だと思うが、資料にあるとおり、環境影響評価が順調にいったら、来年、平成26年度の半ばくらいまではおそらくかかるであろうと考えている。その後、実際に埋立をするとなれば、公有水面埋立法に基づく埋立申請をしなければならぬので、その後すぐに出したとしても、行政的には半年程度は確実にかかるであろうと思っている。実際に事業をやるのは、27年度くらいが最短ではないかと思う。ただ、いつやるかということをはっきりと決めている状況ではない。

（会長）

最短で、平成27年度ということか。

（トクヤマ）

そうだ。

(会長)

技術調査会で出た話だが、長さ約1キロメートル、幅300メートルくらいの公有海水面が消失するということで、工場地帯であるけれども、海水面、海域が無くなるということに対して、それを補う対策は、特に考えていないということであつたが、そういうことか。

(トクヤマ)

そうだ。

(会長)

埋め立てた後の工場用地と既存の周南バルクターミナルの敷地として拡張する用地として、計画が進むのであろうが、ここは市街地から離れたところであり、例えば公園を作ったところで市民の活用はないということかもしれないが、これだけの海域が無くなるということ、自然が無くなるということに対して配慮はいらないのかなと思う。

隣接するところで南陽地区にN-7という埋立が進行中だが、その跡地利用として市民が、憩いの場所というか、干潟を作るとか、そういう計画になっているのだが、それに対応するものがT-10では触れていないような感じがする。その辺の考えについてもう少し聞かせて欲しい。

(トクヤマ)

埋立地の市民利用とか、そういった利用を考えているかどうかという趣旨だと思うが、今のところは周辺が工業専用地域であつたり、貯炭場というように炭がいっぱい積んであるようになっており、当社としては今のところ、市民利用というような土地利用は考えていない。

(委員)

技術調査会の構成メンバーはどうなっているのか。

(技術調査会委員長)

この名簿に載っている学識委員、それと各企業の環境担当者との構成になっているかと思う。

(委員)

この会であれば、1号委員、あるいは4号委員、あるいは市民の、そういう人

はいないのか。

(技術調査会委員長)

いないと思う。だから、技術調査会という名前になっている。技術的に検討するということだ。

(委員)

わかった。

今回の埋立だが、工事が8年くらいかかるという計画になっているが、トータルの費用はいくらくらいかかるのか。それから、21ヘクタールと15ヘクタール、港湾関係と工場用地となっているが、できあがったものの所有権はどうなるのか。

(トクヤマ)

まだ、具体的な金めというのは策定していないので、いくらくらいかかるかというのは、申しあげられるような精度では持っていない。それから、当社として、埋立をするアセスメントには着手しているが、できあがった後の所有権とかを具体的に想定して調査をすすめている訳ではないので、それについても今後検討していきたいと思っている。

(会長)

今のところ確定しづらいと。

(委員)

8年間でというのは必要性から見た要求からか、経済性から見て8年ということなのか。その辺を知りたい。

(会長)

工事期間は8年間とされているが、それは予算的なものなのか、純然たる工事の工程からなのか。それと絡めて予算規模はどのくらいなのかという質問だと思う。

(トクヤマ)

工事期間は、かなり大雑把だが、護岸の延長がだいたい図面上千数百メートルくらいあるので、2年くらいはかかるであろうというくらいであり、埋立土量を520万立米程度ということだったので年間、このくらいかなという感じだ。正確に施工能力であるとか、そういったことを考えないといけないのだが、そこまでは精度的には考えていなくて、現実的にこれくらいでできるであろうというこ

とで工程を作っている。これから準備書作成の段階ではもう少し、施工計画とか数量とかをきちっと出していって、その段階でもう少し精査をしていくという予定にしている。今現在、そういう意味では金銭的にもどんな材料を使うかといったことをこれから検討していく段階になるので、今のところお答えできるような数字的なものがないと答えたところだ。

(会長)

今の時点では、そこまで煮詰まっていないということなので、ここでは環境影響の評価ということで。

(委員)

書いた書類にこだわってはいけませんが、資料1-3で1ページ目に書いてある埋立する目的が2つある。周南バルクターミナルの拡張のための工事と、もう一つは生産環境の充実、言葉として「周南コンビナート各社の生産環境向上に資する事業のための工業用地」、つまり、トクヤマさんの用地ですとは書いていない。第三者から見ると不思議だなという感じだ。

(会長)

その辺りも技術調査会では議論になった。ここでの環境影響評価の方法書を作成する主体はトクヤマだが、実際事業を実行する主体は、トクヤマ1社かどうかは、まだ不確定ということだ。技術調査会とかでの説明でもこの点は議論になったが、トクヤマからももう少しきちんと説明していただきたい。

(トクヤマ)

委員の指摘のとおり、トクヤマの工業用地とは書いていない。それは、このような環境の中でトクヤマ単独での埋立というのは、多分、制度的にも、資金的にも非常に厳しいと思っている。事業主体については今後検討していくという中でやっているところだ。先ほどの生産環境の向上についてもトクヤマの工場プラントを作るということではなく、生産環境と言っているように周南コンビナートの生産性の向上につながるようなものを考えていきたいということを前提として進めているところだ。

(会長)

議題としてあげているのは、環境影響がどうかということに沿って、検討しているというのが実情である。望ましいのは将来計画をはっきり詰めての話が望ま

しいのであるが、これまでの技術調査会ではその辺りは了承しているということで、今回の諮問への回答となる。

本諮問事項は了承として市長に答申することが決定された。

## 7 閉会

参考：参加者 62名

内訳 委員：28名（5名欠席）、事業所関係者傍聴：10名、一般傍聴：1名、副市長、徳山海上保安部、周南警察署、周南健康福祉センター、周南市消防本部：各1名、説明関係者：9名  
事務局：9名